

日本地域福祉学会

No.70 2013.09.01

発行 日本地域福祉学会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館401

TEL 03-5363-1518 FAX 03-5363-1519

URL <http://jracd.jp/> E-mail chiiki-g@jt2.so-net.ne.jp

発行人：牧里 每治 編集人：小松 理佐子

CONTENTS

第27回全国大会を終えて	1
2013年度総会議事録	2
第10回優秀実践賞	4
第27回大会に参加して	5
第4回日韓地域福祉サミット(沖縄)	6
四国部会活動報告	7
新入会員紹介/Information	8



日本地域福祉学会第27回大会を終えて

第27回大会実行委員会事務局長 松 端 克 文 (桃山学院大学)

日本地域福祉学会第27回大会は、「地域福祉の新潮流を探る—グローバルズムとローカリズムの接合—」を大会テーマとして、6月8日と9日の2日間にわたり、堺市民会館と桃山学院大学において開催されました。参加者総数は1,023名におよび、無事、大会を終えることができました。ありがとうございました。

内山節氏(立教大学)による基調講演、地域福祉学会の会長、副会長、研究担当理事による大会シンポジウム、第10回地域福祉優秀実践賞を受賞した3団体による報告会、日韓合同シンポジウム、そして大阪シンポジウムという盛り沢山のプログラムに加え、特定分科会も含めて合計105本の自由研究発表が行われました。

私たち実行委員会は、スムーズに大会が運営できるように心がけるとともに、「大阪らしさ」にこだわってきました。それは一言で表現することは難しいのですが、ノリよさや笑いを大切にすること、そして人情味あるぶっちゃけトークなどでしょうか。情報交換会において学会長や副会長、理事の方々を現代版Five Giantsと闘う“5レンジャー”に“変身”させてしまう雰囲気こそが、大阪的といえるのかもしれない。

地域福祉では、特殊でローカルな個別・具体的な“地域”の特徴を重視することが重要です。大阪の地域福祉の特徴のひとつは、小学校区を基盤とした福祉委員会などの住民組織と社協がとても“元氣”なところだと思います。したがって、大会の前日には、豊中市社協、大阪市西成区社協、そして今回優秀実践賞を受賞した岬町社協の視察を企画しましたが、どのコースも定員の20名を満了し大盛況でした。社協職員の方々には、近畿地域福祉学会の役員組織を中心とした実行委員会のみならず、当日の運営においてもご協力いただきました。自由研究発表の各会場で学生と合わせて4名ものスタッフを配置できたのも社協のみなさんのお蔭です。今回の大会の裏コンセプトは、「社協職員でつくる地域福祉学会」でした。また、桃山学院大学に加えて、大阪大学と大阪府立大学の学生にもご協力いただきました。こうした“オール大阪”的な“輪”ができたことも今回の大会の特徴でした。

地域福祉学会の大会ですので、今後の大会がそれぞれの“地域”の特徴を活かした“地域”福祉学会の大会になることを願っています。